

県議会会派「民主市民クラブ」

県政からの風

県議会政務活動報告書 2018.秋号



中間期政策推進要望を知事へ提出

内 容

- ごあいさつ 1
- 消火活動の技術を競う 2
- とちぎのクルマづくりを牽引 3
- 次なるNo.1ブランドづくりへ 4
- 足利フットボールの聖地完成 あしスタ 6

栃木県議会議員

加藤 正一



人に安心!

暮らしにゆとり!

地域に元気!

ソフト・スマイル・エネルギー!

ごあいさつ

9月6日未明に北海道を襲った胆振東部地震初め6月の大阪府北部地震以降、西日本豪雨や台風21号による大規模な自然災害が相次いで発生しました。多くの尊い命と平穏な日常生活を失うこととなり、改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

民主市民クラブでは8月、こうした大規模な自然災害に対する減災・防災対策を含めた「今年度中間期政策推進及び9月補正予算要望」を提出し、このほど知事より21項目の内容に対し回答が示され、要望を反映した補正予算規模は約57億円となりました。

予算要望では大阪北部地震による小学校塀倒壊に伴う死亡事故から、県立高含む県有施設等ブロック塀対策として施設160ヵ所で総延長11,000mに要する安全対策費801,000千円が計上。原発事故に伴う本県含む4県の輸入規制が7月緩和された香港へ、農産物輸出プロモーションを12月現地で行うなどの事業費5,366千円、河川等の堆積土・立竹木の除去など減災対策を加えた河川改修や砂防施設整備等の防災対策に1,400,000千円が措置された。

政策推進要望においては、若者の定着促進へ県内企業に就職した学生の奨学金返還支援制度の対象奨学金を、9月第2期募集から拡充するとともに、教員の働き方改革における負担軽減へ部活動指導員の導入を検討。女性の自立支援体制充実に向けた相談員の継続的雇用による処遇改善へ、平成32年度導入の会計年度任用職員制度の活用を図ることとなりました。

一方、介護従事者の負担軽減や業務の効率化に向けた「介護助手」導入や生活困窮者自立学習支援児童等の通所補助など、提言への具体策が示されず今後の課題も残りました。

引き続き、こうした政策推進等に関する会派要望や本会議、委員会など様々な機会を捉え、県に対し具体的な政策を掲げて《人への投資》、提言に努めて参ります！



中間期要望知事回答



中間期要望回答内容懇談



回答内容記者会見

消火活動の技術を競う

＝第43回栃木県消防操法大会＝

「家族や仕事先に負担をかけながらも、地域消防活動に貢献できるよう訓練を重ねてきた!」との、佐野市消防団第23分団河又充良指揮者の宣誓で始まった操法技術を競う第43回大会。宇都宮市県消防学校を会場に7月28日、「ポンプ車操法」の部9チーム、「小型ポンプ」の部6チームの計約85人の分団員が出場して行われた。

台風12号の影響から開始時間を1時間繰上げ、開会式も簡略化してのスタートながら、例年同様に緊迫した大会となった。火災現場に到着した状況から、いかに早くホースを延ばし正確に火元へ放水できたかの時間と、団員の動作の正確さを点数化して競う。

降雨や強風に見舞われる悪条件の中、ホースを担いで火元へ走る団員のスピードにどよめきと大きな拍手が会場に響く。

足利からはポンプ車操法の部へ第9分団(須永尚分団長)が出場、《上位入賞》を目標に5月8日の早朝4時から操法訓練を開始。通常の消防団活動は元より、7月1日の市水防演習準備と並行し、50日間に亘る操法訓練は日々の仕事を持つ中、費やす体力と時間、それを支える精神力は並大抵でないことが、何度か見学した早朝訓練で実感。

大会はポンプ車操法の部で益子町消防団第1分団



県消防操法大会開会式

第2部、小型ポンプ操法の部でさくら市消防団第7分団第3部が優勝。ポンプ車操法優勝チームは県代表として、10月に富山県で行われる全国大会に出場する。

競技種目へ8番目に登場した市第9分団は、上位入賞は果たせなかったものの、訓練に取り組んでから最高タイム!を記録し8位の成績。

各団員疲労が残る中、足利へ戻り行われた報告会では、池澤昭副市長や小宮文雄消防団長、青木孝夫名草地区自治連会長等から労いや健闘を称える言葉が送られた。

須永分団長と松島孝征部長から大会までの支援に対する感謝と、大会で得た達成感に満足することなく、習得した操法技術と結束を強めたチームワークを一層発揮し、今後の地域消防活動に取り組む決意が示された。



足利市代表「第9分団」



目標に向け放水

とちぎのクルマづくりを牽引

＝日産自動車栃木工場&モビリティカー試乗＝

とちぎのものづくりを進める上で、産業集積など本県の強みを活かし重点的に振興を図るため、県では《自動車・航空宇宙・医療機器・環境・光》といった5分野を特定し、総合的な支援を行い本県産業の競争力強化と、県内中小企業及び地域経済の活性化に取り組んでいる。

7月18日、本県の自動車産業を牽引する企業である日産自動車(株)栃木工場(上三川町)を、同労組出身・神藤昭彦町議の仲介により県内地方議員とともに訪問した。合わせて、日産自動車開発の《ニューモビリティカー》を公用車へ試験導入する上三川町も調査。

神藤町議進行のもと、中村栃木工場長・星野上三川町長からの歓迎挨拶に続き、中村工場長より事業所概要を説明頂いた。エンジン製造2か所、車両工場を3か所国内展開し、本工場は1968年鋳造部品の生産開始以降、71年に組立工場が完成した。

現在ではシーマ・フーガ・スカイラインなど9車種の高



日産自動車栃木工場ゲストホール

級車やスポーツカーを国内外向けに生産。敷地約2,922,000㎡と国内工場最大の面積には、全長6.5kmの高速耐久テストコースほか様々な環境・条件を想定したテストコースを有す。従業員数約5,300人、平均年齢42.6歳であり、工場部門は平均勤務年数22.7年の熟練技術者達が年間約25万台の生産能力を支える。

日産自動車は高齢者・単身者世帯の増加や乗用車の近距離移動・少人数乗車の使用実態、低炭素社会の実現に資する環境対応車によるコンパクトなまちづくりに適した交通手段に着目し、超小型モビリティの



日産自動車ニューモビリティカー

実証事業に取り組む。超小型モビリティは原付以上、軽自動車未満の新しいカテゴリーの乗り物です。コンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ身近な移動手段の1~2乗り車両。

上三川町は昨年6月より日産自動車協力で、リースにより公用車へ試験導入。町は軽自動車8台含め33台公用車を保有する一方、原付バイクは職員が利用経験に乏しいことに着目。従来の公用車利用は年間約5,600回、1回平均走行距離は約25km、約7割は1人での乗車実績であった。モビリティカー導入から今年3月まで利用は119回、平均走行距離約7kmで施設調査や資料搬送の利用が多かった。課題として「荷物積載量が少ない」「後部座席が狭い」「エアコンがない」など原付バイク同様の指摘に加え、「後方が後退時見づらい」「軽自動車より安価な

保険料」といった改善点を上げた。

報告を基に私から、公道走行に際し道路運送車両法に基づく国交省認定を要することから、職員への運転講習の実施や受講状況、リース事業導入経費や事業への国等支援の有無等伺った。

町では引続き検証が必要とのことから、今年度も継続実施することとした。



モビリティカーへ試乗

次なるNo.1 ブランドづくりへ

=園芸大国とちぎづくり=

今年1月15日、県産いちごの生産量及び販売額が50年連続全国一となったことを記念し、《いちご王国・とちぎの日》を宣言しましたが、本県は製造業に止まらず農業分野でも立派な「ものづくり県」です。

平成28年度国内農業産出額の都道府県別順位では1位北海道12,115億円、2位の茨城県4,903億円には及ばぬものの、栃木県は2,863億円で全国9位。いちごに続く産出額上位には米や生乳、豚及び肉用牛が挙げられる。

県では米政策の見直しにより主食用米からの転換が求められる中、これまで培ってきた技術の向上に加え、耕

地面積の8割を占める水田を活用することで、園芸農業の振興を図り収益性の高い「園芸大国づくり」を進めている。6月22日には農業関係機関及び生産者代表で構成する推進会議を設置し、《園芸大国とちぎづくり宣言》を行い、園芸産出額を平成27年の約



JAかみつがにて生産状況調査

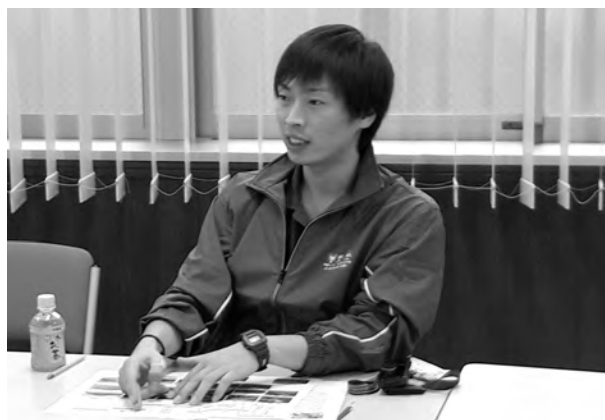
1,000億円から37年には1,300億円へと目標設定した。

新品種や新技術の導入により、「にら」や「アスパラガス」「なし」などを新たな主力品目として生産拡大を目指す中、昨年2月には県が育成・開発したにらの新品種「ゆめみどり」を品種登録。ゆめみどりは葉鞘が長く収穫作業がしやすく、葉厚で葉幅が広く品質もよく、収量が多く見込めることに加え連続して収穫できる。にらは28年産で高知県の16,400tに続く全国2位ながらも、10,400tと生産量で大差を付けられ、同品種の普及による生産性向上で日本一奪還を目指す。

そこで、早くからにら生産に取り組む、県内でも生産が盛んなJAかみつがと鹿沼市内生産者を6月15日会派で現地調査。JAかみつが園芸特産グループ・青果物販売担当大橋優祐さんから、約50年の歴史がある鹿沼にら部の状況と市場の動向を伺った。

部員数137戸で栽培面積は約53ha、年間出荷量は約1,700tと国内有数の産地であり、一年を通した安定出荷と品質は市場で高い評価を受ける。生産品種はミラクルグリーンベルトが30~40%、グリーンロード30%、ハイパーグリーンベルト10%の割合の中、ゆめみどりは17戸で約80a栽培。農家の減少対策と生産性向上にウォーターカーテン導入による栽培設備のもと寒暖差管理の均一化や、生産者が行う結束など出荷作業をJAによるパッケージセンター整備で拠点化検討などの課題を抱える。

その際、私から鹿沼産のにら市場価格の変遷やウォーターカーテンに要する平均的費用や設置状況、パッケージセンターの先進的取り組み地域や導入成果を質した。



JAかみつが大橋優祐園芸特産販売担当

続いて、にら部会石川順一副部長宅を訪問し、栽培作業やゆめみどり生産に携わる中での実情を聴取。石川副部長は米に加えにらを約1ha作付けし、県試験場の品種改良時からゆめみどりの試験栽培に関わってこられた。

同品種はその特徴とともに出荷するまでの結束作業等も容易であるが、2月頃の2番刈り時に葉が折れるといった表皮剥離が生じることに課題を残す。温度管理が重要であり、ウォーターカーテンの必要性を理解しながらも、費用と後継者問題で進まないのが現状と指摘。

一方、消費者は「見た目重視」を優先するものの、料理によって「色や味の濃淡」で使い分けるなどニーズは多様であり、食材としての付加価値を具体的メニューで提案していく必要性を示唆する姿に、国内有数の生産地を支える自負と園芸大国とちぎづくりを担っていく意気込みを強く感じたところです。



鹿沼市石川順一にら部会副部長ハウスにて

足利フットボールの聖地完成 あしスタ

＝足利市西部多目的運動場＝

足利市サッカー協会（勝沼春彦会長）は5月19日、平成30年度評議委員会総会を開催し、幼年からシニアに亘る7つの世代別及び審判委員会初め3専門部における前年度活動報告と、10月28日に5回目となるキッズカーニバルin足利大会ほか主催行事等種々の今年度活動方針を確認した。

総会では、先の第96回全国高校サッカー選手権優勝の前橋育英高ゴールキーパーとして活躍した当協会出身湯澤拓也選手初め4名を表彰。翌20日は、協会が長年要望していた人工芝サッカー場完成を祝う式典が行われた。

市内大前町足利大学グラウンドを市が無償で借り受け、昨年10月から工事に着手し3月完成。スポーツ振興クジ（ト）より5,440万円の助成を受け、総額2億1,640万円の事業費により人工芝8,214㎡内へサッカーコート1面（105×68m）、兼用で少年用コート2面（68×50m）・ラグビーコート1面（108×68m）を設置した。LEDによる夜間照明設備を備え、近くトイレも整備予定。

完成に合わせ募集した愛称は、応募総数365作品から「あしスタASSISTA」に決定。「ゴールをアシスト」から市民のスポーツ及びレクリエーションの推進を図り、健康で明るい市民生活に貢献する施設になってほしいとの思いが込められる。当日は命名者で協会役員でもある中山芳寿さんへ、和泉市長



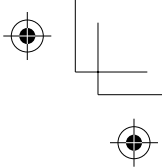
あしスタサッカー場完成式

より記念品が贈呈される一方、同施設で使用する放送設備一式が市サッカー協会寄附として、少年部所属の常見俊輔さん・亀田埜乃花さんから目録が市長に手渡された。

式典は市イメージキャラクターたかうじ君をゴールキーパーに、市長によるキックイン（始球式）で締め括られ、その後、完成記念サッカー交流試合を実施。



たかうじ君とキックイン



皆様のご要望をお寄せください

県政に関する要望調査

※ 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

お名前

連絡先

◎皆さんのご意見をおまちしております。

栃木県議会議員 **加藤 正一**

■住所：〒326-0143 栃木県足利市葉鹿町500-3

■事務所：TEL (0284) **62-0054** FAX (0284) **62-8253**

HP : shoichi-kato.ecnet.jp E-mail : kato3211@wativ.ne.jp

